



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **18**
2024/Jul.
令和6年7月11日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園





2歳児教育・幼稚園から小学校、中学校、高等学校、大学そして大学院までを擁する帝塚山学園。特に学園前キャンパスは同一敷地内にすべての校種が共存する教育環境となっています。その特色を生かして、帝塚山学園では様々な学校間連携事業を積極的に推進しています。ごく一部になりますが、各取組について3ページより紹介します。

T-time

帝塚山学園広報誌

2024/Jul. **18**
令和6年7月11日発行 Vol.18



〈表紙の写真〉
園庭で元気いっぱい遊ぶ幼稚園たんぽぽ組の園児たちに、表紙写真の撮影を協力してもらいました。お気に入りの遊び道具を持って、とびきりの笑顔を見せてくれました。

Contents

特集 つながるひろがる教育連携 P 02

- 小学生の交通安全意識向上に貢献 大学生による交通安全教室
- 食育活動を実施
- 食べ物の大切さを学ぶ! 大学生と幼稚園児による野菜植栽
- 心理学部学生が小学校の授業を訪問
- 集中して学べる環境へ! 勉強合宿で成績アップを目指そう!
- 体験型食育「作って食べよう! ぱくぱくパン作り」

大学 P 05

現代生活学部食物栄養学科
4大学対抗ビザバトルで「最優秀賞」を受賞!

TOPICS

- 5年ぶりに学園前キャンパスで「あかね祭」を開催
- 獅子舞男子「ゆのキッズ」が大学寄贈の3D模型「令和の獅子頭」で獅子舞披露
- 経済経営学部田中雅子ゼミの学生が株式会社ベルを訪問

中学校・高等学校 P 07

モノづくりプロジェクト始動!
AIを利用してプログラミングしてみよう

TOPICS

- 学園祭「Alice in Wonderland」を開催
- 2024年度「田んぼプロジェクト」が始動
- サンディエゴSTEAMプログラムおよびハワイサイエンスキャンプを実施

小学校 P 09

ESD(持続可能な開発のための教育)展開を目指して
外部講師出張授業を実施

TOPICS

- 世界に一つだけのオリジナルまくら作り
- デジタル時代の学びへ タブレット学習の第一歩
- 大切に育ててね 伝統のアサガオパトン
- ロボット教室 WRO Japan 2024 (全国大会) 出場を目指して

幼稚園 P 11

お米プロジェクト ~田植え~

TOPICS

- 空気の力について考えてみよう 空気のでロケット発射
- 心と体を育てる 体操教室で元気いっぱい
- 春の訪れを感じよう! いちごつみに出発
- 「親子でフラワーアレンジメント教室」を開催

・同窓会だより P 13

・INFORMATION P 14





6/20
大学
×
小学校

心理学部学生が 小学校の授業を訪問

大学心理学部4年生の学生が小学校1年生と2年生の授業を訪問しました。心理学部では公認心理師を目指す学生も多く、教育現場や医療現場などを訪問し、心理学の観点から現場でどのような支援が必要とされているかを学んでいます。今回の訪問は心理実習の一環で、学校教育現場に実際に触れ、子どもの理解を深める目的として行われた大学と小学校との初めての取り組みとなりました。

参加した学生は「教育現場に限らず、ケアが必要な人を実際に見極めるのは難しい判断が必要となると改めて痛感した」「児童の授業風景を見学して、子どもとの心理学的な関わり方やアプローチ手法の参考となった」と感想を述べました。

この実習を担当する心理学部山口祐子教授・河越隼人准教授は、「学生たちが、教育現場で先生たちがどのように子どもと接しているかを学び、子どもの心理的発達を感じ、今後に活かしてほしい」と今回の取り組みについて語られました。



3/29-3/31
大学
×
中高

集中して学べる環境へ！ 勉強合宿で成績アップを目指そう！

大学東生駒キャンパスの「セミナーハウス三碓」で高校2年生を対象とした勉強合宿が行われました。生徒自身があらかじめ計画した「学習計画表」に沿って、夜遅くまで勉強が進められます。仮眠室も用意され、休憩をとることができますが、眠気に負けず、友人たちと勉強に励みます。

合宿をサポートするのは、本合宿を担当する中高数検教諭をはじめとする教員陣、卒業生たちです。常にスタンバイし、生徒の学習サポートを行います。生徒たちも疑問点が出てくるとすぐに質問をすることができ、理解を深めることができます。

参加した生徒は「普段と違う環境で、勉強が捗った。集中して勉強することができた」と勉強合宿をやり抜いた表情で語っていました。



3/5
大学
×
幼稚園

体験型食育 「作って食べよう！ ぱくぱくパン作り」

大学現代生活学部食物栄養学科の佐伯孝子・新宅賀洋ゼミの学生16人が参加して「作って食べよう！ぱくぱくパン作り」を実施しました。

このイベントは、園児が楽しく自分たちが食べる給食のパンを作る体験型食育です。大学生たちは作り方や、成形時の注意事項などを園児にも伝わるように絵や図を用いて分かりやすく説明し、パン作りをする手伝いをしました。ゆっくりと元気に大きな声で、園児にも伝わりやすい話し方や園児の目線で物事を見るなど、園児と交流できるよう事前に準備をしました。

この日の給食は佐伯ゼミの学生が考えた献立で、ハンバーグ・かぼちゃサラダ・コンソメスープ・みかんヨーグルトです。焼き立てのパンと一緒にしっかり食べてくれました。



5/7
大学
×
小学校

小学生の交通安全意識向上に貢献 大学生による交通安全教室

大学法学部のアドバンスクラスの学生が小学校1年生を対象に交通安全教室を行いました。小学校1年生を対象とした交通安全教室は昨年度に続き、2度目となります。奈良県警察の協力及び笹邊将甫法学科長の指導の下、大学生が考案したオリジナルプログラムで、開催されました。

交通安全教室は「信号機の色はどれが正解でしょうか」といったクイズ形式で始まりました。一斉に手が上がり、児童たちは当ててほしいそうです。次のプログラムでは、体育館の床に引かれた線を横断歩道に見立て、大学生と一緒に横断する練習を行いました。

交通安全教室の後には、防犯意識を高めるため、子どもが連れ去り等の被害に遭わないためのキーワードである「いかのおすしー人前」（知らない人について「いか」ない、知らない人の車に「の」らない、「お」おきな声を出す、「す」ぐ逃げる、大人に「し」らせる、「一」人で遊ばない、出かける「前」にお家の人に言う）について、ダンスを通じて、小学生に伝えました。小学生は、実際に体を動かし、楽しみながら、交通规则や防犯意識の大切さについて学ぶ良い機会となりました。



5/23
大学
×
幼稚園

食育活動を実施

国家資格である管理栄養士の合格を目指す大学現代生活学部食物栄養学科の学生が、幼稚園を訪問し、この日の献立に含まれている「ほうれん草」をテーマに食育活動を行いました。この活動は、平成28年から続けられています。大学生が実際のほうれん草とチンゲンサイを持参し、園児たちに「どちらがほうれん草でしょうか？」とクイズをしました。野菜の違いに園児たちも興味津々で、楽しみながら学びました。食物が体にとって、大切だということも食育活動と給食を通じて理解が深まったようです。



5/20
大学
×
幼稚園

食べ物の大切さを学ぶ！ 大学生と幼稚園児による野菜植栽

大学現代生活学部食物栄養学科新宅賀洋ゼミの学生6名が、幼稚園の野菜植栽を手伝いにやってきました。この野菜植栽は、OATアグリオ株式会社による苗の植え方指導や肥料提供等の協力を得て、行われました。

最初に各クラスで、同社の講師から野菜の生育や肥料に関する説明が行われました。その後、園庭に出て苗の植え方指導を受け、園児と大学生が協力し、年少組はプチトマト、年中組はきゅうり、年長組はなすの苗を植えました。野菜の苗を植えた後は、じょうろでたっぷり水をやり、植え付けが完了しました。園児たちは、収穫の日を待ちきれない様子でした。

学生たちは、「この体験を通して食べ物ができるようになっていくかを、食の知識を蓄積し食育に繋げたい」「自分たちで育てることによって、食べ物の大切さを知ってほしい」とこの日の感想を述べました。





5/19 5年ぶりに学園前キャンパスで「あかね祭」を開催

短期大学時代の「茜祭」を受け継ぎ、新入生歓迎会を目的として行われる「あかね祭」が、今年5年ぶりに学園前キャンパスで行われました。奥村由美子学長の開会宣言に続き、音楽系団体等の演奏やあかね祭恒例のお笑い芸人のライブ等が行われ、学園前キャンパスは賑わっていました。今年には地域住民の方や卒業生も参加され、学生との交流を楽しんでいました。

また、各教室では、部やサークルなどの展示や催しも行われました。参加者は、茶道部のお茶や、手品サークルのパフォーマンスなどに魅了されていました。

14号館で行われた、心理学部交流イベントや相談ブースでは、先輩達による、新入生の各部活動やサークルの入部相談や勧誘が行われました。相談後は、入部の決意を固めた新入生が、多く見受けられました。

不安定な天気の日となりましたが、あかね祭実行委員会を中心に運営されたあかね祭は、大盛況のうちに終了しました。



6/14 経済経営学部田中雅子ゼミの学生が株式会社ベルを訪問



清掃管理などのメンテナンス業務や福祉事業を展開する株式会社ベル(大阪府東大阪市)を、経済経営学部の田中雅子ゼミアドバンスクラスの学生たちが訪問しました。田中ゼミでは2

年生と3年生の学期末に「優良企業とは何か」をテーマとしたレポート課題に取り組んでおり、経営者の生の声を聞き、テーマの深堀りを行っています。経営者への訪問を重ねることにより、学生の考える「優良企業」の概念が変化していくため、このテーマが継続して課されています。今回の訪問でも優良企業の定義の根幹となる、企業経営・文化、組織運営や理念について学ぶ貴重な機会となりました。

当日のスケジュールは、まず、同社代表取締役よりご講演が行われました。代表は自社の歴史や経営理念、これからのビジョンについて熱く語り、ゼミ生たちはその刺激的な内容に熱心に耳を傾けていました。

次に質疑応答の時間が設けられました。ゼミ生全員から手が挙がり、経営や社員教育、組織、後進の育成についての質問が止みませんでした。代表からは一つひとつの質問への丁寧な回答だけでなく、具体的な助言もいただきました。最後に学生は、会社見学をして職場の様子を観察したり、交流をしたりすることで、企業運営に対する理解を深めました。

今回の訪問を通じて、学生たちは企業経営の現場を直に体験し、今後の学びやキャリアに活かす貴重な知見を得ることができ、再度「優良企業とは何か」を熟考する機会となりました。

5/19 獅子舞男子「ゆのキッズ」が大学寄贈の3D模型「令和の獅子頭」で獅子舞披露

山口県立美術館で開催された大学の関根俊一客員教授が監修する企画展「奈良大和路のみほとけ-令和古寺巡礼」において、昨年度で閉校した山口市立柚野木小学校出身の「ゆのキッズ」が大学から寄贈された3D模型「令和の獅子頭」を使用して獅子舞を披露しました。

「令和の獅子頭」のもととなった帝塚山大学附属博物館が所蔵する獅子頭は、令和3年に大学文学部の学生らの調査により約200年前に山口県山口市の徳地地域で制作されたものであることが明らかになりました。その後、同じ文化年間に制作されたもう一つの獅子頭が山口市の柚木神社に保管されていることが判明し、同年6月の展示会「獅子頭 つながる人と郷土」で約200年ぶりに再会を果たしました。

文学部はこの伝統文化を次世代に継承するため、超軽量の3D模型「令和の獅子頭」を作成し、柚野木小学校に寄贈しました。当時在学していた3人の男子生徒「ゆのキッズ」は、この獅子頭を使って様々なイベントで獅子舞を披露してきました。令和6年3月に柚野木小学校は閉校となりましたが、「令和の獅子頭」は徳地中学校に引き継がれました。

今回の企画展は、奈良の有名寺社の仏像が山口に集うイベントとなり、獅子舞は特別な縁で結ばれた山口と奈良をつなぐパフォーマンスとなりました。



6/15・16 現代生活学部食物栄養学科 4大学対抗ピザバトルで最優秀賞を受賞!



最優秀賞に選ばれた「大和丸なすとオレンジのデザートピッツァ」



賞状を受け取る学生



関係者全員で受賞の喜びを分かち合いました

イオンモール大和郡山(大和郡山市)で開催された4大学対抗ピザバトルで、現代生活学部食物栄養学科の学生が「最優秀賞」を受賞しました。
この催しは、「魅力再発見 大和郡山フェア」の一環として行われたもので、大和郡山市の特産品である「大和丸なす」を用いたピザを通じて奈良県の伝統野菜の普及や消費拡大を目的としています。
奈良県内の管理栄養士養成課程のある大学(帝塚山大学・奈良女子大学・近畿大学・畿央大学)の学生で構成する学生団体「ヘルスチーム奈良」に所属する学生たちが大学対抗でそれぞれにレシピに工夫を凝らす中、本学学生が考案したのは「大和丸なすとオレンジのデザートピッツァ」。

大和丸なすを甘く煮込んだコンポートにし、さっぱりとしたオレンジと塩味を効かせたパンチエッタを組み合わせて「新感覚の甘じょっぱいデザートピザ」に仕上げました。初日には店頭販売に加え、各大学によるレシピ発表が行われ、本学学生は「丸なすとクリームチーズでは彩りが足りず、塩味やうま味のあるパンチエッタやオレンジを加えてみた。あまりなじみのないデザートピザを自分へのごほうびとして食べてほしい」と苦労を重ねた開発の過程を存分にプレゼンしていました。最終日となる2日目は、焼き立てのピザをお客様にふるまう試食販売を行い、学生がこだわりの味を一人ひとり丁寧に説明していました。夕刻の結果発表では、見栄え、独創性、大和丸なすの「食味」「レシピ発表(プレゼン)の内容」「販促物」など6つの基準をもとになされた審査の結果が発表され、みごと本学が最優秀賞に選ばれました。発表の瞬間、驚きと喜びの表情を見せた学生たちに対し、聴衆から大きな拍手が送られました。審査員からは「大和丸なすのコンポートのさっぱりとした甘さ」とオレンジのすっぱさが絶妙に合った「調理スタッフから食べてみたいとの多くの声があった」などのコメントが寄せられ、学生たちを誇っていました。



ピザをおすすめする学生



レシピについて説明する学生

4/26 学園祭「Alice in Wonderland」を開催



今年の学園祭のテーマは「Alice in Wonderland」。不思議の国のアリスが登場する個性豊かなキャラクターたちのように、「個性」や「人とは違うこと」を認め合おうというメッセージが込められています。学園祭の会場の至るところに不思議の国のアリスをテーマにしたフォトスポットや階段アートが施され、訪れた人々は幻想的な世界に浸ることができました。各クラスでは、ミニゲームやお化け屋敷などの体験型模擬店が出展され、



長蛇の列ができるほどの人気でした。講堂では、有志によるダンスパフォーマンスや漫才が行われ、大いに盛り上がりました。特に、ダンスパフォーマンスでは、生徒たちの息の合った踊りと華やかな衣装が観客を魅了しました。また、漫才では、生徒たちのユーモア溢れるトークが笑いを誘い、会場全体が笑顔に包まれていました。



6/16 2024年度「田んぼプロジェクト」が始動



国営飛鳥歴史公園(奈良県明日香村)内のキトラ古墳周辺地区「キトラの田んぼ」で「田んぼプロジェクト」に参加した生徒による田植えが行われました。今回のプロジェクトで植え付けた品種は古代米の「神丹穂」です。一般的な白米とは異なり、赤い実を実らせませす。このプロジェクトは、地元農家の方々との共同による稲作体験を通じ、生徒たちが農業の観点から、伝統や文化、産業などについて幅広く学ぶことを目的としています。今年で実施5年目を迎え、中高教諭や地元農家の協力のもと、中学校1年生から高校2年生までの生徒24名が参加しました。



苗の植え付けは、プロジェクトでご協力いただいている農家の樽井一樹さんと瀬川健さんから指導を受け、行われました。苗を植えるためにガイドロープを張り、約30cmの間隔で苗を植えていきます。生徒たちは、田んぼの泥の触感や明日香村の自然豊かな田園風景を楽しんでいました。今年度、このプロジェクトは、八尋博士教諭によるモノづくりプロジェクト(7ページ)とのコラボレーションも予定しています。



3/20~29 サンディエゴSTEAMプログラムおよびハイサイエンスキャンプを実施

中学校では、「国際人をめざす英語教育」を目標に中学校1年生から外国人教師による英会話授業や世界の第一線で活躍する方々によるグローバルキャリア講演会等を行い、国際的視野に立って行動できる人材育成に力を注いでいます。このプログラムでは、中学校3年生を対象に、英語を母語とするアメリカで、習得した英語力をホームステイや海外の現地校との交流を通じて、積極的に試す機会として実施されました。



ハワイサイエンスキャンプに参加した男子生徒は、ハワイ州のハワイ大学やミラニ中学校を訪れ、現地生徒とプレゼンテーションを通じて交流を深めました。また、天文学学習のため、科学教育施設であるイミロア天文学センター(Ilimoa Astronomy Center)を訪れ、宇宙空間や天体現象について、知見を深めました。その他にも、ホームステイ、イルカやウミガメの生態観察を通じて、異文化体験や自然観察能力を高め、サイエンス英語を学ぶ貴重な機会となりました。



サンディエゴSTEAMプログラムに参加した女子生徒は、カリフォルニア州のSTEAM教育を実践するハイ・テック・ハイ・サン・マルコス(High Tech High San Marcos)やセリトス高等学校を訪れ、現地生徒と交流を行いました。また、科学機器・科学サービス企業であるサーモフィッシャーサイエンティフィック(Thermo Fisher Scientific)を訪問し、最新の科学技術に触れました。これらのプログラムを通じて、生徒たちは英語力の向上だけでなく、異文化理解や科学技術に対する知識を深め、国際的に活躍できる人材としての成長を目指しています。



5/13

モノづくりプロジェクト始動！ AIを利用してプログラミングしてみよう



中高八尋博士教諭による、モノづくりプロジェクトが4月より始動しました。「ロボット教育を通じて自由なモノづくりの実践」を理念として、生徒を対象に、ロボット教育やカメラを用いた機械学習を通じて訓練を行い、最終的には生徒自らが社会問題等の課題解決に貢献できるモノづくりを行います。本事業は公益財団法人村田学術振興・教育財団より、2024年度のA助成(モノづくり教育支援)で採択され、教育助成を受けており、研究の過程や成果を学会で発表することを目標とした取り組みとなっています。

この日は、株式会社アフレルより講師をお招きして、AIを使い、レゴエデュケーション SPIKEをプログラミングし、動かすプロジェクトが行われました。最初にニュースやディスカッションを通じて、AIに関する基礎知識を学びます。次に、AIの顔認証やコーディングで、ブロック型ロボット(レゴエデュケーション SPIKE)を動かします。講師からは「ジグザグにロボットを走らせてみましょう」「机から落ちないようにプログラミングして、走らせましょう」など、難しい課題が与えられます。最初は思い通りに動かさず戸惑いながらも、生徒たちは自分の思い通りに動くよう試行錯誤を繰り返し、プログラミングをしました。

参加者の西村梨沙さん、内山莉那さんは「このような機会はありません」

ので、挑戦しようとする参加を決めました。プログラミングなどの知識は無く、難しかったけれど、ロボットが思い通りに動いたときは達成感がありました。」と話してくれました。

八尋博士教諭は、「今後は3Dプリンターを活用することや、電子工作も行っていきます。簡単にはできない

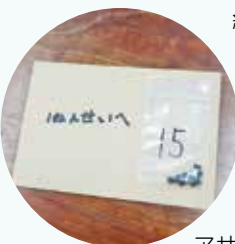
「この日は、株式会社アフレルより講師をお招きして、AIを使い、レゴエデュケーション SPIKEをプログラミングし、動かすプロジェクトが行われました。最初にニュースやディスカッションを通じて、AIに関する基礎知識を学びます。次に、AIの顔認証やコーディングで、ブロック型ロボット(レゴエデュケーション SPIKE)を動かします。講師からは「ジグザグにロボットを走らせてみましょう」「机から落ちないようにプログラミングして、走らせましょう」など、難しい課題が与えられます。最初は思い通りに動かさず戸惑いながらも、生徒たちは自分の思い通りに動くよう試行錯誤を繰り返し、プログラミングをしました。」

今年度、教諭による「田んぼプロジェクト」(8ページ)とのコラボレーションも予定しています。



▲左より、公益財団法人村田学術振興・教育財団 吉川浩一様、八尋博士教諭、小林健校長

5/30 大切に育ててね 伝統のアサガオバトン



約30年前から、小学校では1年生がアサガオを育て、その花から採れた種を次の年の1年生に受け渡すことが伝統となっています。この日は2年生がアサガオの種と1年生への手紙を渡すために1年生の教室を訪問しました。

「大切に育ててね」「綺麗な花が咲くよ」とアサガオの種と手紙を渡す2年生。1年生はもらったアサガオの種と手紙を大切にすぐに自分のお道具箱の中にしまっていました。夏になれば、色とりどりの花を咲かせることでしよう。

その後は、1・2年生の交流を深めるために自己紹介をし、給食と一緒に食べました。好きな食べ物やアニメ、動物の話に笑顔あふれる交流会になりました。学年をまたいで、仲良く楽しいひとときを過ごすことができました。



6/8 ロボット教室 WRO Japan 2024 (全国大会) 出場を目指して

3年生以上の希望者を対象として、土曜日や長期休業中にロボット教室を実施しています。ロボット教室では、課題をクリアするために友人とチームを組み、レゴで組み立てたロボットをプログラミングで動かします。この日も友人と協力しながら、試行錯誤を繰り返し、ロボット製作およびプログラミングの課題に取り組んでいました。



ロボット教室に参加している児童は、毎年夏に行われるWROという国際的なロボット競技大会に出場します。この大会はロボットを製作し、プログラムによりロボットを自動制御する技術を競う大会で、各都道府県で予選会が行われます。予選会で優勝するとWRO Japan 2024決勝大会(全国大会)への出場権を獲得できます。令和5年度、小学校はWRO Japan 2023奈良予選会のエキスパート部門で優勝し、全国大会に出場しました。今年度も8月3日・4日に帝塚山学園講堂で開催される予選会での優勝を目指し、全国大会出場の切符を掴むため、難しい課題に取り組んでいます。

4/17 世界に一つだけの オリジナルまくら作り



小学校では、平成29年度から全校で15分間のシエスタ(昼寝タイム)が導入されています。机にうつ伏せで仮眠する際に使用するオリジナルのまくらを西川株式会社の協力ののもと、1年生が製作しました。最初に同社から「眠育」に関する話があり、その後、自分たちのオリジナルまくらの製作にとりかかりました。6年生にも手伝ってもらい、赤、青、オレンジ

▲こぼれないようにそっと白の色とりどりの中材をネット状の袋に詰め込んでいきます。徐々にカラフルなまくらが出来上がっていきます。世界に一つだけの自分のまくらが完成すると、早速、寝心地を確認したり、抱きしめたりしながら、「(寝心地が)気持ち良い」「勉強に集中できそう」など、嬉しそうに笑顔浮かべていました。



5/22 デジタル時代の学びへ タブレット学習の第一歩



3年生からICT機器活用の一環としてタブレットを導入しています。この新しい学びのツール使用の初日、朝から児童たちは期待感で満ちていました。

最初に担当教員から、タブレットやキーボードの基本的な使い方、パスワードやアカウント名、IDの重要性、そしてタブレットを使用する上での約束事について、一つひとつ指導を受けました。児童たちは真剣な表情で話を聞き、情報モラルについての重要性を学びました。その後のタブレットの操作では、パソコンやキーボードに触れる機会が少ない児童たちにとっては、記号の入力やひらがなとローマ字の切り替えが難しく感じられたようです。それでも、一生懸命に話を聞き、チャレンジしようとする姿が見られました。

このタブレット導入により、情報教育授業の他にも各教科の学習を深め、広げることが期待されます。ICT機器を活用することで、より授業理解が深まるとともに、論理的思考力や問題解決能力の向上が期待できます。



5/27・28・30 ESD(持続可能な開発のための教育)展開を目指して 外部講師出張授業を実施



ESD(Education for Sustainable Development)とは持続可能な社会の実現を目指す、人々に知識や価値観、スキルを身につけさせる教育のことです。これには環境保護、貧困削減、人権擁護、持続可能な経済成長など、持続可能な開発目標(SDGs)を達成するための教育が含まれます。

小学校では外部講師をお招きして、このESD展開を目指し、様々な授業を取り入れています。5月27日・28日に奈良市役所廃棄物対策課の方をお招きし、「食品ロス削減及びごみ減量」について、奈良市で実際発生している食品ロスについて、地球環境問題について考えるきっかけ作りをしました。5月30日にはダイハツ工業株式会社の方をお招きし、ものづくり体験学習として、「自動車工業と車の製造過程」について、学びました。車の組み立て等の作業工程を子どもたちが体験できるように、小学校の体育館で自動車部品の各組立工程を再現していただきました。グループ毎に溶接やプレス、塗装、ライン製造を体験し、自動車製造について実際に作業体験等を通じて知識を深めることができました。同日、大阪弁護士会の弁護士もお招きし、「いじめ問題を他人事としないために」をテーマに、いじめや人権について考えました。いじめ現場をロールプレイ形式で児童が体験することで、いじめめる人・いじめられる人・いじめを加勢する人の他に、4つ目の立場にいるいじめをやめさせる人の存在に気付くことができました。人それぞれ人権があり、自分だけでなく、相手の気持ちも尊重し、思いやることについて深く考える機会となりました。



5/10 春の訪れを感じよう！ いちごつみに出発



年少・年長組の園児が幼稚園バスに乗り、いちごつみに出かけました。

いちご農園のハウス内は、赤く熟したいちごで一杯。説明を聞き終わった園児たちは、「一杯取れた」「こんな大きいいちごがあったよ」



「たくさん取れたよ」と、自分で収穫したいちごを先生や友だちと見せあっていました。いちごつみに苦戦する年少組の園児たちには、年長組のお姉さんお兄さんが、優しくつみ方を教えていました。

収穫が終わるころには、園児たちは口や手を真っ赤にしなが、おなか一杯。満足そうな顔をしています。



このいちごつみは自然体験活動の一環であり、実際に自分で収穫することにより、収穫の喜びを体験し、子どもたちの人間性の成長に繋がっています。

5/18 「親子でフラワー アレンジメント教室」を開催

幼稚園と企業の教育連携として、OATアグリオ株式会社と協働でフラワーアレンジメント教室を開催しました。参加した親子40組が、講師の指導の下、色とりどりの花々を使いアレンジメントを楽しみました。



園児たちはカーネーション、ガーベラ、かすみ草など8種類の花から、自分の好きな花を選び、美しい作品を作り上げました。親子での共同作業は、親密なコミュニケーションの機会となり、多くの笑顔が見られました。参加者からは「親子で楽しい時間を過ごせた」「花を通じて子どもと一緒にクリエイティブな体験ができた」といった声が寄せられました。

イベントを通じて、親子の絆を深める貴重な機会となりました。



5/30 空気の力について考えてみよう 空気の力でロケット発射



幼稚園のチャレンジプログラムの一つである「サイエンス&クラフト」が行われました。園児たちは実験や工作を通じて、身近な科学的現象や科学の魅力について学びます。

この日は、「空気」について学びました。講師からの「なぜ、扇子や団扇で仰くと顔が涼しいと感じると思いますか？」との問いかけに、思い思いに答えを考えます。「空気は動く性質を持っていて、温かい空気が動いて代わりに低い温度の空気に入れ替わるので涼しく感じます」と回答後に、講師が持参した空気砲で実際に空気を感知、また涼しくなるか体験しました。

空気が動く性質を学んだ後は、紙コップでロケット、牛乳パックでロケット台を製作しました。空気砲の空気を発射する要領でロケット台を勢いよく叩くと、ロケットは空高く舞い上がり、発射は大成功でした。



※チャレンジプログラムは、他にもパレエ、体操、茶道などがあり、園児の興味関心や身に付けたいことに応じて、選択します。

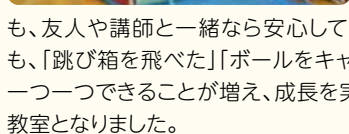
5/30 心と体を育てる 体操教室で元気いっぱい

この日の体操教室はリズム室でサーキット運動が行われました。サーキット運動開始前にボールを使って準備体操をします。講師から手を広げてボールに乗り、足を上げて落ちないように指示を受けると、園児たちはぐらつきながらも上手にバランスを取ります。



準備体操が終わると、サーキット運動が始まります。まず、自分が最初に始めたい運動器具のところに並び、スタート。サーキット運動の内容は多岐にわたり、鉄棒で前回りをしたり、跳び箱を飛んだり、マットレスや

ボールなど多様な運動要素が組み合わせられています。運動器具によって、異なる動きを必要とするため全身の筋肉をバランスよく発達させることができます。一人では難しいことも、友人や講師と一緒に安心してチャレンジできます。この日も、「跳び箱を飛べた」「ボールをキャッチできるようになった」と一つ一つできることが増え、成長を実感でき、笑顔あふれる体操教室となりました。



6/5 お米プロジェクト ～田植え～

このプロジェクトでは、園児たちが実際に田植えや稲刈りを体験し、食べ物の大切さを学び、お米の生育について理解を深めます。年長の園児を対象に実施され、種籾から育ててきた苗を、小林弘明前育友会会長のご厚意により、京都府精華町にある田んぼをお借りし、田植えを行いました。

この日は、田植えの前に田んぼの中でクラス対抗リレーが行われ、園児たちは泥んこになりながら、足から伝わる田んぼの土の感触を楽しみました。田んぼの中に入ると、「土の感触が気持ちいい」、「暖かくて、柔らかい」と楽しそうなお声が聞こえてきました。その後、全員で田植えを体験し、一列に並び、苗を2、3本ずつ手に取り、苗が浮いてこないように丁寧に植える姿が見られました。また、田植えの後にはエル取りも行われ、田んぼにいる生物の観察を楽しみました。

このプロジェクトを通じて、園児たちは田んぼの土に触れ、植物を育てる喜びを経験します。また、秋に収穫を予定しており、「早く食べたい」、「大きく育ててね」とお米の成長が待ち遠しい様子でした。このような自然体験型の学習活動を通じて、園児たちの豊かな感性を育むことを目指しています。お米プロジェクトは、自然環境との共生や、食の大切さを学ぶ絶好の機会となりました。



松岡 幸司大学客員教授が 春の叙勲・瑞宝双光章（警察功労）を受章

4月29日、令和6年春の叙勲受章者の発表があり、松岡幸司大学客員教授が瑞宝双光章（警察功労）を受章されました。松岡客員教授は、奈良県警察本部で警察署長・警察学校長・交通部長などを歴任され、防犯や交通安全、犯罪発生時の捜査等の警察署の業務統括や後進の育成に努めてこられました。

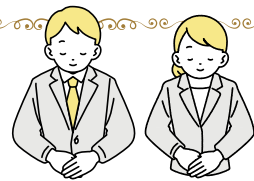
これらのご経歴を生かし、帝塚山大学では警察関連の講義をご担当いただき、特に警察官を目指す学生たちに対して、実務的な知識や倫理観を身につけるための教育・指導を行っておられます。

6月21日には、瑞宝双光章の受章及び大学法学部「警察官実務講座」開催100回記念さらに大学開学60周年記念も兼ねて、「警察官人生を語る」と題し、特別講義を実施いただきました。これまでの経験を振り返り、講座を受講し現在警察官として活躍する卒業生も招致し、講座での思い出や警察官としての心構えを在学生に向けてお話しされました。

今回の受章について心よりお祝いを申しあげるとともに、今後一層のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



ご寄付をお考えの皆様へ ご寄付に関する専用サイトを開設



保護者の皆様、卒業生の皆様をはじめ、各界各層の皆様方におかれましては、平素より帝塚山学園の教育研究活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

学園広報誌「T-time」第17号でご案内していましたご寄付に関する専用サイトをこのたび、開設いたしました。本学園は、令和3（2021）年に創立80周年を迎え、次の90周年、100周年に向けて、これからの時代に求められる人材を育成するために国際教育やICT教育等への対応を進め、更なる環境整備を行っているところです。

*なお、現在は通常のご寄付の他に本年度が開学60周年にあたる大学におきましては、皆様方からの60周年記念のご寄付を募っているところでございます。

皆様におかれましては日頃から、多大なご協力を賜っているところではありますが、学園各学校の教育研究活動へ一層のご理解をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*本学園へのご寄付は税制上の優遇措置を受けることができます。

ご寄付に関する専用サイト



News 01 令和6年4月18日 卒業から60年後の学年同窓会開催 小学校卒業生が学園と小学校を見学

小学校昭和39年卒業生が学年同窓会の一環として、学園内と小学校を見学されました。当時通学していた小学校の様子からは大きく変わりながらも、小学校の授業風景や図書室等を見学し、昔の思い出に花が咲きます。『(星・月)組の名前は昔と変わっていませんね』『プールは昔ここにあったのよ』と当時の小学校の思い出に思いを馳せました。



News 02 令和6年5月5日 奈良陸上競技協会より 功労者賞及び審判員功労賞を受賞



ルートフィールド奈良（奈良市鴻ノ池陸上競技場）で、奈良陸上競技協会より、帝塚山中高22期の京谷こまえさんが「功労者賞」、高校教員の林智彦先生が「審判員功労賞」を受賞されました。お二人は長年の奈良陸上競技協会への功労や審判員としての活躍が認められ、表彰を受けました。

表彰された京谷こまえさん、林智彦先生おめでとうございます。これからもお二人のご活躍をお祈りしています。

Congratulations!

帝塚山学園同窓会

令和6年度 総会・懇親会のご案内

日時 令和6年9月8日(日) 11:00~15:00 **会場** ホテルモントレ グラスミア大阪
近鉄「大阪難波」駅から徒歩1分
大阪市浪速区湊町1-2-3

第1部 令和6年度 総会 11:00~11:45 (21階 ブルーベル) **クールビズ 推奨** エコスタイルでお越しください。
第2部 懇親会 12:00~15:00 (21階 スノーベリー) **お楽しみ大ビンゴ大会 長寿のお祝い記念品贈呈** 卒業生のプロミュージシャンの演奏をバックに食事をしながら、楽しいひと時をお過ごしください。出席者全員に記念品進呈!

申込方法 下記事務局宛にFAXかメール **参加費** 10,000円 (75~78期生は3,000円)

お問い合わせ
帝塚山学園同窓会事務局 〒631-0034 奈良市学園南3-1-3 TEL/FAX 0742-48-9085
E-mail t-dousou@m4.kcn.ne.jp



学校法人帝塚山学園
Tezukayama Gakuen



「*T-time*」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。